

風水害対策

屋内



- 台風、雨風に関する気象情報、町や防災関係機関などからの情報を聞く。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備をする。



- 断水に備えて飲料水の確保をする。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備をする。
- 浸水のおそれがある場合は、家財道具などを高い場所へ移動する。



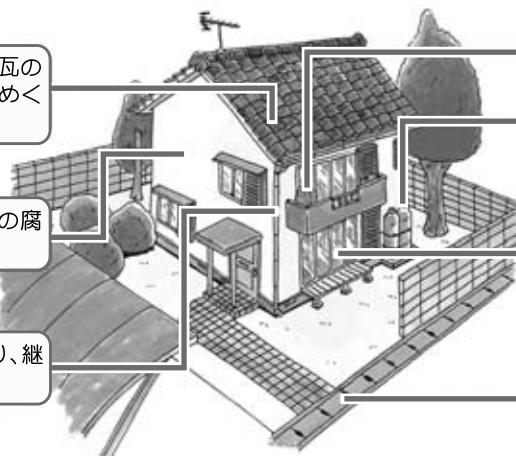
- 被害が予想される場合は、高齢者、乳幼児、病人などは安全な場所に避難させる。
- 家族で避難場所や一緒にいない場合の連絡方法を確認する。

家のまわり

● 雨戸のがたつきや緩み、屋根(瓦のひび割れ・ズレ・はがれ、トタンのめくれ・はがれ)の点検・補強をする。

● 外壁(モルタル壁の亀裂、板壁の腐りや浮き)を点検する。

● 雨どい(落ち葉や土砂の詰まり、継ぎ目ははずれ)を点検する。



● 鉢植えや物干しざおなど飛散の危険性が高いものは室内へ移動するか固定する。

● プロパンガスのボンベを固定する。

● 窓ガラス
 ・ ひび割れ、窓枠のがたつきの点検・補強をする。
 ・ 強風による飛来物に備えて、外側から板でふさぐ。
 ・ 強風対策として、サッシ枠も含めガラスにガムテープを張る。

● 側溝、排水溝を掃除して水の流れをよくする。

昭和三十四年九月二十六日午後六時過ぎ、紀伊半島の南端潮岬に上陸し、奈良県中部を経て、午後九時には鈴鹿峠付近を通り、中部地方を横断しました。この地方は台風の進路の東側に入ったため、各地とも風と雨が強くなり、河川は急に水かさが増しました。満潮時による高潮と重なったため、河口付近ではいたるところで堤防が決壊し、大きな災害となりました。

愛知県下の被害は、犠牲者三千百六十八人、行方不明者九十二人、家屋の全壊二万三千三百三十四戸・流失三千百九十四戸でした。



写真は伊勢湾台風直後の阿久比町の様子(提供 知多県民センター)

矢高字三ノ山高地内(高岡老人憩の家北側周辺)が、愛知県の土砂災害特別警戒区域に指定(8月7日付け)

土砂災害特別警戒区域は、愛知県が急傾斜地を現地調査し、土砂災害の恐れのある区域のうち、住宅などの損壊、住民の生命または身体に著しい危害が生じる恐れのある区域です。このため、同区域内にある「高岡老人憩の家」を8月31日をもって避難所指定を解除します。今後は、安全な経路で最寄りの避難所のエスplan丸山などを利用してください。



阿久比町の被害は、犠牲者八人、重傷者四人、軽傷者百七十三人、家屋の全壊八十戸、半壊二百二十九戸でした。(参考 阿久比町発行『あぐいのあゆみ』)

大きな被害をもたらした伊勢湾台風